

街にアートが POP UP!

京都文化カプロジェクト 2016-2020

KYOTO POWER OF CULTURE PROJECT 2016-2020

POP UP MUSEUM 2019.2.16 - 3.17

5万本もの葦よしに囲まれる不思議な空間。京都文化カプロジェクトにおける2018年度のコア事業として、街なかに出現した野外インスタレーション・アート。まさに都市空間に「ポップアップ」するアートとして新たな文化体験を提示した取り組みを紹介します。



アートユニットYottaによる作品展示も同時開催された(京都市岡崎)



「花子」



「金時」

都市空間を彩る 新たなアート体験

野外インスタレーション公募展

2016年に始動した「京都文化カプロジェクト」。東京2020オリンピック・パラリンピック等に向け、日本の文化首都・京都が先がけとなってその魅力を世界に発信し、新たな創造の潮流を起こそうとする文化と芸術の祭典です。

2018年度は「アーツアンドクラフツ(美術・工芸)」をリーディング事業として展開。そのコアイベントとして「野外インスタレーション公募展」を実施しました。公募展では、2018年6月から9月にかけて国内外のアーティストやクリエイター、建築家などから、都市における空間を大胆かつ想像力豊かに活用し、自由な発想で体験できるインスタレーション作品を募集。14の国々から111件もの応募があり、審査員を務めた建築家・安藤忠雄氏、森美術館チーフキュレーターの片岡真実氏、京都芸術センター館長・建島哲氏の3名によって、建築家ユージン・ソレル氏の作品「Kyoto Urban Wind Installation」が大賞に選ばれました。

作品の舞台となる京都は、日本の文化・芸術の中心地として1200年という悠久の時を刻んできた歴史都市であるだけでなく、先進技術を誇る世界的企業がひしめくものづくり都市であり、数々のノーベル賞受賞者を育ててきた学術都市であり、また地球温暖化に先駆的なチャレンジをする環境都市でもあります。そうした多様な顔を持つ国際都市・京都に吹いた新たな創造の

風。伝統と自然、そして人が織り成す大賞受賞作品の魅力に迫ります。

京都の繊細な自然を知覚する

大賞作品が発表されたのは2018年12月4日。受賞したユージン氏には制作補助費500万円が授与され、作品の実制作がスタートしました。展示会場は北山駅にほど近い旧京都府立総合資料館の前庭。京都コンサートホールに隣接する約800㎡の広い敷地です。

ユージン氏の受賞作品は、5万本におよぶ葦よしを立て並べ、風で揺れると穂先に取り付けたさまざまな鈴が優しい音色を奏するというプラン。嵐山の竹林に着想を得たという作品で、自然のかすかな動きを都市の中で視覚化・聴覚化しようとする試みです。

この作品は、多くの人やコミュニティ、そして現地の自然と関わりながらつくっていくという制作過程自体も作品の一部。2019年1月からスタートした制作には、のべ100人以上のサポートスタッフが、5000個の鈴を葦に取り付ける作業や5万本の葦を立て並べる作業などに参加しました。

冬の寒空のもとでの制作でしたが、高さ約3m、面積およそ350㎡の大きな作品が無事に完成。まさに竹林の小径のような葦の通路が現れました。葦が風に揺れるたび、時にかすかに、時に賑やかに鈴が鳴ります。作品は、

2019年2月16日から一般公開がスタートし、1カ月という期間限定ながら北山の街の新たなアートスポットに。期間中は、さまざまなアーティストたちとのコラボレーションやマルシェなども実施し、訪れた人々はひとときの風の回廊散策を楽しんでいました。

新たな創造の風、京都から世界へ

一般公開初日の2月16日には、京都府立京都学・歴史館にて授賞式が開催されました。会場では、入選に選ばれたブノワ・モーブリー氏、大松俊紀氏、井口雄介氏の3つのプランが展示されたほか、建築家の青木淳氏や彫刻家・名和晃平氏、京都芸術センター館長の建島哲氏によるシンポジウム「都市空間における祝祭と文化」も開催(森美術館副館長の片岡真実氏は欠席)。また、同期間中は京都の文化ゾーンである岡崎公園では、アートユニットYottaによる「ヨタの鬼セレブレーション展」も同時開催しました。

2018年度のリーディング事業「アーツアンドクラフツ」において、野外インスタレーション公募展をとらえた京都文化カプロジェクト。続く2019年度は「くらしの文化」をリーディング事業として、さらなる文化の創造と発信を続けます。